

# ネルチンスク条約における「モンゴル」について

：領有と決定

S. チョローン  
(堀内香里 訳)

モンゴル史研究においてこれまで殆ど取り上げられなかった課題の一つに、1689年にネルチンスク要塞で締結されたネルチンスク条約がある。これは、露清間で結ばれた条約とはいえ、「モンゴル」の問題であり、その運命を左右するものであった。ネルチンスク条約締結前の情勢、当時の露蒙および露清関係の様相、モンゴル人のロシアへの関与をめぐる歴史的環境等に注目することで、17世紀モンゴル史の持つ複雑な問題に解を得られるだろう。ネルチンスク条約それ自体の問題については、国外の研究者らによって夙に詳細な考察がなされている。そこで今回報告者は、この条約が締結される前後の「モンゴル」の問題を明らかにすることを目指す。ネルチンスク条約という歴史的な出来事に関して、モンゴル国内では全く研究がなされておらず、それをテーマにした専論書も未だ出版されていない。またロシア、中国、日本には同条約の研究を行ってきた者がいるものの、自国の利益や立場から論じてしまっている。一方でモンゴル史研究においては、現時点でこの問題を専門的に扱った論文さえない。言うなれば、史学研究の外に置き去りにされてきたのである。今日にもつながる露中関係の起源やその公的関係の始まりをネルチンスク条約に見出すことができるのと同時に、この出来事を通じて両国間関係の歴史的経緯を探ることができる。

我々の歴史資料には、ネルチンスク条約に関する明確な記述がない。この条約の原本は、現在ロシア外務省付属ロシア帝国外交文書館（以下 АВПРИとする）に保管されているが、ラテン語および満洲語の全文とロシア語文の複写があるのみである。また、ロシア国立古文書文書館（以下 РГАДАとする）にもロシア語の写しが所蔵されている。これまでに原本の全文は公開されていない。そこで報告者は石に彫刻された漢文を V.S. ミヤスニコフの著書より知り、その翻訳を利用した。報告者はこれまでに、中国第一歴史档案館、台湾の档案館や故宮博物院の所蔵品等を調査してきたが、見つけ出すことはできなかった。今後公文書館等より発見されることを期待している [史料No.1. ネルチンスク条約ロシア語文]。

ロシア皇帝は、およそ70年にわたりモンゴルや満洲との交流を試み、17世紀後半からはその東方政策を改めた。これは、モンゴルの貴族を介するよりも、よりダイレクトに満洲／清国との交流を確立することの方を重要視したためである。とはいえ、やはりその国交の最重要課題は「モンゴル」の人たちに所在した。

モンゴル貴族内では、ハルハとジュンガルの不合、ザサクト・ハンとトシェート・ハーンの不和、ロシアとハルハ貴族の不信等が生じ、露清間では、アムール、アルグン川、ダウール（ダウーリヤ）地域の先住民問題によって管轄および領地に係る論争が勃発していた。こうした非常に厳しい時期に、ロシア側からこの条約の発効をめぐる提言がなされた。しかしながら、これは突如として発生したものではない。1670年代末から、ネルチンスク、アルグン川流域に遊牧するモンゴル貴族、新たに移住してきたロシアカ倫の関係者、先住民等の間で幾度も不和が生じるようになっていた。無論、この問題はロシアが各地で実施した政策に直結している。ネルチンスク条約をめぐる露清関係については、これまでも研究者の注目を集めてきたため、報告者は主に同条約締結前夜の「モンゴル」問題に主眼を置こうと思う。

ネルチンスク要塞がモンゴル関連史料に現れるのは1670年代以降である。ロシア人研究者らは、この条約の目的が清との友好的な隣国関係の樹立、外交の活性化、交易の拡大に所在していたと述べている<sup>1</sup>。だが実際には別のところに問題が所在していたことを、本報告では簡略ながら論じたい。

1670年代からロシアは、アルバジン問題、アムール・黒龍江・ネルチンスク等の先住民の管轄、狩猟、要塞の新設といった諸問題の処理に迫られることとなった。ロシアは、地理学的位置、農耕、自然資源といった点で条件の頗る良いこの地域を支配下に置こうと意欲的になっていた。これに対し清側は、故地と属民を彼らから保護し、要塞建築の禁止や属民の返還を何度もロシアに勧告し、使節を通じて文書を送ったりしたが、効果は得られなかった。こうした中、1680年代には、アムール川流域で清の兵士が軍を結成し、更にアルバジン等の砦を包囲した。清はモンゴルのトシェート・ハーン・チャホンドルジ等に対してこの事件に介入するよう強く働きかけたが、彼は直ちに介入することはなかった。ロシア人研究者のD. T. ヤコブレヴァは、1676年の康熙帝からトシェート・ハーン・チャホンドルジやウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバ等への下賜が反ロシア態勢に導くための行為であったとし、1689年までこの関係は強固なものであったと結論付けた<sup>2</sup>。ところが実際には、モンゴル側がそうした関係や指図を実現したことはなく、自らの利益を最優先にして交流していた。このことはロシア語や満洲語の公文書から明らかである。一方、トシェート・ハーン家では大きな内部問題が発生していた。これには、西からオイ

---

1 *Внешняя политика государства Цин в XVII в.* Ред. Л. И. Думан. М., Наук. 1977. Стр. 276.

2 Яковлева, П.Т. *Первый русско-китайский договор 1689 года.* М., Наука. 1958. тал. 76-77.

ラトのガルダン・ボシクトがザサクト・ハンと結託して迫り寄っていたこと、また北からもロシア人たちがセレンゲ（セレンガ）川やウデ（ウダ）川流域まで迫り来て先住民の管轄問題を深刻化させていたことなども影響していた。

トシェート・ハーン・チャホンドルジらは、如上の問題について、直ちにロシアに敵対するのではなく、外交を通じて解決を図ってきたが、思うような成果は得られなかった。ロシア側もまた東方情勢を注視しており、平和的解決を急いで実績のある外交官F. A. ゴローヴィンを全権大使として派遣することにした。ロシアを巡る国際関係もまた芳しいものではなく、トルコやタタール等とは戦争の只中であつた。アルバジンだけではなく、セレンゲ、ネルチンスク、イルクーツク、エニセイの城塞でも苦情や抗議が絶えなかった<sup>3</sup>。

こうした情勢の中、ロシア宮廷は高位の人材を集めて使節団を任命した。その正使がF. A. ゴローヴィンである。彼は報告書の中で「偉大なる全権大使兼ヴォイヴォダ（великий, полномочный посол и воевод）」と名乗っている<sup>4</sup>。この使節団には、エラトムスクの駐在代表者であるイオン・エフスタフィエヴィチ・ウラソフ、書記のセミオン・コルニツキー<sup>5</sup>、イワン・ユディン、百人隊長のアレクセイ・シニャビン等がいた。彼らに期待された任務は主に次のようなものであつた。①アムール南岸の先住民が古くからこれまでロシアに貢租を納めていたことを認めさせること、②アムール流域における境界を定め、アルバジンの問題を解決すること、③通商関係を樹立すること、④アルバジンの立て直しのために500の砲兵を擁する軍隊2,400人をセレンゲ要塞に送ること等であつた<sup>6</sup>。これに対してアルバジンには3万の清軍がいた。だが、F. A. ゴローヴィンにとって、清との問題を片づけるよりも先に取り組むべき大問題は「モンゴル」案件であつた。モンゴル問題の核は、既に発生していたセレンゲ、バイカル、ダウール地域における管轄問題と、モンゴルにおける要塞の建築であつた。ロシア側は、最も高い地位にいるトシェート・ハーン・チャホンドルジやウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバ等とともにこの問題の調整に当たることを重要視した。F. A. ゴローヴィンを筆頭とするロシア使節団は、1686年1月26日にモスクワを發つた。彼らは、1687年秋までアンガラ川付近にあるリブノイ砦での駐在中に、ザバイカルからの詳細な情報を収集したほか、清に使節として赴いたN. ベニユコフやI. ファボロフ等にも会つた。N. ベニユコフは、皇帝からの贈物をトシェート・ハーンに届けたが、先住の属民たちを返還するよう要請されたこと、また満洲皇帝が対ロシア戦への

3 Яковлева, П. Т. *Первый русско-китайский договор 1689 года*. М., Наука. 1958. тал. 127.

4 Шастина, Н. П. *Русско-Монгольские посольские отношения XVII века*. М., 1958. стр. 119.

5 АВПРИ. Ф-163. Трактаты. оп.1. л. №22. 1689. [Нерчинский договор между Россией и Китаем от 27 августа 1689 г]. л. 2-3об. – заверенная копия, русский язык., л. 6-6 об. – подлинник, латинский яз., л. 7-11 – подлинник, маньчжурский язык.

6 Трусевич, Х. *Посольскія торговля сношенія Россіи съ Китаемъ. (до XIX века)*. М., Человкколюбиваго Общества. 1882. стр. 30.

参加を要請すべく（トシェート・ハーンに：訳者）使節を派遣したことを報告した。これはロシアが大変深刻な状況にあることを意味していた。つまり、軍隊を用意するだけの力がないロシアにとって、勢力のあるトシェート・ハーン家が敵軍の満洲側に付いて一戦を交えることになれば、過酷な戦況は目に見えていた。こうした中F. A. ゴローヴィンは、真っ先にトシェート・ハーン家と協議し問題の解決に当たることが、ネルチンスク条約の締結よりも重要であると考えた。ロシア皇帝も、彼らがモスクワを発つ前に、トシェート・ハーン・チャホンドルジ等と話し合いをつけるよう指示を出しており、

И окольнічему де Федору Алексеевичю Головину из Селенгинского острогу с  
Очирой Сайн-ханом обо всяких делех ссылатись возможно

（フョードル・アレクセービチ・ゴローヴィンはセレンゲ砦からオチル・サイン・ハーンと全ての事柄において共に取り組めるだろう）<sup>7</sup>

と見通していた。ところが、F. A. ゴローヴィンがこの問題に取り掛かろうとしても、使節管理当局は全く聞く耳をもたなかった。

ロシア皇帝は、1685年12月13日一すなわちF. A. ゴローヴィン等の出発前に、清との条約締結に際して援助を求めるべくトシェート・ハーン・チャホンドルジ宛てに書簡を認めた。当然のことながら、この書簡はロシア使節らが自ら届けたはずである。そこには、

*...Очарою Сайн-хану, тем нашего царского величества великих послов любительным пересылкам верить, и службу свою и радение со всеми улусными людьми своими нам, великим государем, нашему царскому величеству, оказать совершенно и явственно, и к воинскому промыслу на неприятелей дать все владения своего силы, за которую службу и радение мы...*

（オチャロイ・サイン・ハーン、貴殿は自らツァーリに忠誠を尽くし我らが敵に対抗して共に戦うと誓ったのであった。今も我々ツァーリの命に従って、我が民たちと友好的に暮らしている。もし何か不満があれば先に挙げた使節たちに知らせ、過失のある者を見つけ出して処罰しなければならない。そして上に述べた我々の偉大なる使節たちが貴殿とともに業務に当たるのであれば、必要に応じて敵に対して軍を準備し、偉大なる我が使節等を信じ、ツァーリに貢租を納めていることに皆で喜び、全力で彼らを援助しなければならない）<sup>8</sup>

7 *Международные отношения в Центральной Азии. XVII-XVIII вв. Документы и материалы.* Книга 1. Составители Б. П. Гуревич., В. А. Мойсеев. М., Наука. 1989. Стр. 178-179.

8 РГАДА, Ф-62. [Сношения России с Китаем], оп. 2, 1685 г., д. Мг 2, лл. 29. Список XVII в.

と特筆している。だが、トシェート・ハーンにしてみればロシアの属下になった事実などないため、先住の属民を取り戻すという強い姿勢を崩さなかった。1686年秋、F.A.ゴローヴィンは、自身の特使をウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバに派遣することについてロシア皇帝に上奏した。その中で、ウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバの位置付けについて、

государи, что мунгальские все владетели имеют ево, Кутухту, духовного чину в великом почитании и во всяких великих делах без его повеления поступати не смеют

(モンゴルの貴族たちは皆ホトクトを精神上大いに敬い、如何なる案件でもその言葉を待たずに取り掛かることを恐れる)<sup>9</sup>

と言明している。ウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバに使節を派して、彼らがロシア使節とどのような目的で会するのか、交戦する気であるのか、ホトクトやモンゴルの貴族たちはどのような考えを持っているのかなど、中国に関連する全ての事柄を正しく把握して文書にして送るよう課した。この頃、ロシアが関わりを持っていた有力貴族の一人が、ホトゴイドを管轄するゲンデン・ホнтаイジである。ロシア語史料では彼を「ゲゲーン・ホトクト」と呼んでいる。彼はガルダン・ボシクトの勢力拡大によって圧迫され、トゥンキンスキー、フブスグル湖南東、セレンゲ、エグ川流域に暮らしていたため、F.A.ゴローヴィンはかなり慎重に交流した。

こうしたこともあって、ロシアは1686年のフレンベルチル（ロシア語史料には“*Кербильчил*”とある）会盟の動向を注視し、その後セレンゲやバイカル南部でのモンゴル側からの侵入を如何に防ぐのかということが喫緊の課題となっていた。1687年5月にイルクーツク当局が発した文書には、モンゴルや満洲が属民の保護を目的としてさらに要塞を建築することが記されている。フレンベルチル会盟に参加した康熙帝の勅使やウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバ等の議事録には、満洲使節の話として、アルバジンやネルチンスクまで、途中の町々を経由しながら武器の輸送を行っていることが記録されている。ロシアは、彼らが誓いを立てたため襲撃されることを警戒した。言い換えれば、ロシア側は、ネルチンスクやアルバジンへの道中、モンゴルや満洲によって危害を蒙りかねないと思っていたのである。

F.A.ゴローヴィンは、トシェート・ハーンやウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバ以外に、ゲンデン・ホнтаイジ、エレヘ・アハイ、ピント・アハイといったトシェート・

9 РГАДА, Ф-62. [Сношения России с Китаем], оп. 2, 1685 г., д. № 2, ч. 2, лл. 352-354. Подлинник.

ハーン系統の有力貴族とも交流し、その一部を味方に入れて忠誠を誓わせようと意欲的に取り組んだ。彼は1687年秋にウデに到着した<sup>10</sup>。そして、最初に迎え入れたのがウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバヤトシェート・ハーン・チャホンドルジの使節であった。ウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバの使節ゲツェル・ラマのロドイ・センゲは従者や商人らとともに書簡などを持ってやってきた。当該使節の来訪直前、トシェート・ハーン・チャホンドルジは康熙帝に、

...orus-yin čayan qayan-u tabun mingyan elči ilegegsen kemejü bičig-tei elči ireji qariba. üge-yi inu niruyu degere sumun elči ilegejü egüber ba jegün-tegegür alin-a ire gepsen yajardur čiyulalaju törü kikü genem. Bisiči olan čerig jegün eteged siqaji yabunam. kemen sonustanam. manu qariyad ulus-i abuyad, jaq-a jaq-a-ača šoy kiji bayiqu ni olan či bolba, qayan inü törü kikü duratai metü boluyad ulus ni tung mayad ügei samayu itegel ügei tulada sigiid-ün yadaysayar öni bolba. edüge ene elči-ber čayan qan-du činaysi kelegesen üges-ün aliba qariyu bai geküdü ni uçir-i meden bolayqu-yin tulada kümün ilegebe

(ロシアの白いハーンの5,000人の使節が派遣されたと言って、書状を持った使節がやって来て帰って行った。言葉をのせた急使を派遣して、こちらでも東方でも、どこでも来いと言ったところに集まって会議を開いて政治を行っている。多くの兵が東方に進軍していると聞く。我が管轄の民をとらえて、あちらこちらで悪さを働く者も多くなった。ハーンは治めようとするようだが、人々が必ず騒ぎ立て信用もないため対処が間に合わずに今日に至った。この度、この使節をして白いハーンに届けた言葉の返事があると言うので、このことを報告するために人を派遣した)<sup>11</sup>

のであった。これは、ロシア人たちとの間で何らかの問題が発生したとき、満洲皇帝が間違った行動をとらぬよう警戒して通知したものである。F. A.ゴローヴィンはモンゴルの使節たちを丁重に迎え入れ、彼らの訪問の目的を入念に探った。トシェート・ハーンとウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバラからの書簡には、

Да Геген-кутухта поздравляет великому и полномочному послу в добром ли

---

10 Шастина, Н. П. *Русско-Монгольские посольские отношения XVII века*. М., 1958. стр. 125.

11 *Dayičing qüren-ü dotoyatu yamun-u mongyol bičig-un ger-ün dangsa*. Erkilegčüd Jiyačidai Buyandelger, Borjigidei Oyunbilig, Eu yuwan Pying. *Öbür mongyol-un arad-un keblel-ün qoriy-a*. Улаанбаатар. 2011. боть 6. тал-57.

здоровье великий и полномочный посол пришел в Удинской. Да что он, великий и полномочный посол, идет для перемирных договоров на китайскую границу, и от великих де и полномочных послов он, Кутухта, к себе и улусным людям задору никакова не чаает, о том радуется. А что де на китайскую границу они, великие и полномочные послы, идут для вечного умирения чрез их Мугальскую [землю], и им де, Геген-кутухте, и тайшам оттого имеет быти сумнение для того, что де с ним, великим и полномочным послом, идут // ратные люди многие, также брацкие и тунгуские люди, чтоб де он, великий и полномочный посол, брацких и тунгуских людей с собою не брал, потому что те брацкие люди ушли из их мугальских улусов и живут в стороне царского пресветлого величества. И те де брацкие люди, мня прежние к себе досады, какова дурна не учинили, потому что в прежних годех с великими государи, их царским пресветлым величеством, бывали у них ссоры многие, и о тех де ссорах Геген-кутухта и Ачирой Сайн-хан к великим государем писал многажды. И против де их писем от великих государей, их царского пресветлого величества, к ним, Кутухте и Ачирой Сайн-хану, отповеди не бывало и по се число

(全権大使がウデに無事に到着したことに、ゲゲーン・ホトクトより祝い申し上げる。そして友好の条約を締結すべく中国の境界に向かう全権大使が、ホトクトや我々の諸ウルスに悪事を働かないことを信じて嬉しく思う。恒久の安寧を得るべく、モンゴルの地を経由して中国の境界に向かう全権大使たちに、多くの兵、またブラーツクやツングースの人々も同行していることに疑惑の念を抱いている。全権大使、貴殿らにブラーツクやツングースの人々を連れて行くなど言っているのだ。何故ならば、彼らブラーツクの人々はモンゴルからツァーリの側に移った。そして、そのブラーツクの人々が以前のごとく我に危害を与えないことを願っている。何故ならば、これまでの数年間、彼らの件でツァーリと幾度も争ってきたからだ。そしてこれらの争いについて、我々ゲゲーン・ホトクトとオチロイ・サイン・ハーンは、ツァーリに数回にわたって手紙を書いてきた。だが、我々ホトクトとオチロイ・サイン・ハーンは未だ返信をもらったことがない)<sup>12</sup>

とある。トシェート・ハーン・チャホンドルジとウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバは、外交関係を壊さないように留意しつつ文書を送って、モンゴルから移り出た人々を返還することや、F. A. グローヴィン大使たちがモンゴル人に危害を加えないことを要請した。それだけでなく、ロシアの使節や商人が清で活動するのに際しては滞りのないように

12 РГАДА, Ф-62. [Сношения России с Китаем], оп. 1, кн. 13, л. 15-15 об. Список XVII в.

援助することも表明した。だがF. A. ゴローヴィンは、ブラーツク、セレンゲ域のモンゴル人が断じてウンドル・ゲゲン・ジェプツンダンバヤトシェート・ハーン・チャホンドルジ等の「属民ではない」ことを述べ、歴代のロシア皇帝に古くより貢租を納めてきたと反論した。これに対して、モンゴルの使節ゲツェル・ロドイ・センゲは、

Преж де сего, как те ясашные люди перешли в сторону их царского пресветлого величества, изменя им, и ясак платят не в давных летех, а преж де сего бывали под их мунгальским владением

（納租者たちが彼らから逃げてツァーリの側に入り、貢租を納めるようになって日が浅い。その前まで彼らはモンゴルの管轄下にいた）<sup>13</sup>

と、明白な事実をもって回答した。先住の納租者である彼ら属民が、ロシアに貢租を納めるようになってからたった数年しか経っていなかったのは明らかである。だが、F. A. ゴローヴィンは使節と会した際に、これはアレクセイ・ミハイロヴィチが皇帝であった時代から始まったことだと主張し、むしろセレンゲやダウールの地からモンゴルに逃れ出た人々を返還するよう抗議した。なお、この会合において一つ興味深いことが話し合われている。露清間の条約締結は、はじめアルバジンの近くで行うつもりで使節を派遣し、それが難しいというのであればモンゴルを経由して中国の境界付近で条約を締結することとする記録されている。つまり、この条約の締結をネルチンスクで行うことは、初めから確定されていたわけではなかったようである。両者は、いくつかの重大事案について互いに照会し合った。例えば、モンゴル使節が、前年にアルバジンで捕らわれた人々の居場所を確かめようとしたのに対して、ロシア使節は、清からどのような人物が条約の締結に参加するのかを問い合わせている。この会合の後に、ロシア大使F. A. ゴローヴィンは、モンゴル使節たちを食事で手厚くもてなし、次のような手紙と贈物を手渡した。すなわち、

гичюл Лодой Сенге сукно красное аглинское 4 аршина, юфть кож красных, 2 соболя в косках, мех заечей, выдра большая; Ирдени Немчи-лабе лисица красная, 3 соболя в косках, мех заечей, кожа красная, выдра; Ачарой Сайн-хана посланцу мех заечей, соболь в коске; Шириширееву посланцу за дары сукно кармазин 4 аршина, мех заечей, соболь в коске; мунголом, которые были с посланцы двум человеком, 2 кожи красных да 2 соболя

（ゲツェル・ロドイ・センゲには4アルシンの長さのイングランドの赤い布、赤いロシア革、爪のついたクロテンの毛皮2点、ウサギの毛皮、オオカワウソの毛

---

13 РГАДА, Ф-62. [Сношения России с Китаем], оп. 1, кн. 13, л. 18. Список XVII в.

皮を、エルデネ・ノムチ・ラマにはアカキツネの毛皮、爪のついたクロテンの毛皮3点、ウサギの毛皮、赤い革、カワウソの毛皮を、オチル・サイン・ハーンの使者にはウサギの毛皮、爪のついたクロテンの毛皮、セデシリの使者には4アルシンの長さの赤いラシャのうす布、ウサギの毛皮、爪のついたクロテンの毛皮を、モンゴル人使者2名には赤い革2点、クロテンの毛皮2点)<sup>14</sup>

を贈った。トシェート・ハーン・チャホンドルジとウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバ等は、ロシア使節団が持参した手紙を読むことができず、セレンゲにバルダン・ウイゼンを使者として派遣し、翻訳して送りなおすよう求めた<sup>15</sup>。手紙には、ウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバがアルバジンで起きている戦争の真相を既によく知っているとはいえ、我々は貴方の反感を買うようなことは一切してきておらず、もしも今日まで何らかの不満や意見があれば全権大使に伝えて解決させるべきであることが述べられていた。そのうえで、

...мунгальской Кутухта, потому ж в тех наших великих государей делех радение свое прилагал и имел с ними, нашего царского величества великими и полномочными послы, любительные пересылки и к государству нас, великих государей, нашего царского величества, ко всякому доброхотению имел желательство  
(モンゴルのホトクト、猊下は我々ツァーリの業務に介入し、我々ツァーリが任命して派遣した全権大使たちと善意ある考えを交換し、ツァーリの国のためにあらゆる面において好意的でおられよ)<sup>16</sup>

と記しているように、ネルチンスク条約の締結に際して、モンゴルのトシェート・ハーン・チャホンドルジとウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバ等が主たる仲介者となることを望んでいた。ロシアの全権大使 F. A. ゴローヴィンがウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバ等に宛てた書簡には、

jibjun damba qutuy-du-tu orus-yin ilegegsen bičig.tngri-yin jiyayabar yeke ejen qoyar qaγan, yeke qoyar noyad iwan owaligsi jibuja swin yeke bay-a čaγan γajar-i ejelegseger

14 РГАДА, Ф-62. [Сношения России с Китаем], оп. 1, кн. 13, л. 23. Список XVII в.

15 *Русско-монгольские отношения. 1685-1691. Сборник документов.* Сост. Г. И. Слесарчук. Ответственный редактор Н. Ф. Демидова. М., Восточная литература РАН. 2000. стр.

16 *Русско-монгольские отношения. 1685-1691. Сборник документов.* Сост. Г. И. Слесарчук. Ответственный редактор Н. Ф. Демидова. М., Восточная литература РАН. 2000. стр. 104.

olan qayan ejen-tei ʧajar uridu qoyidu barayun jegün tere ʧajar-i ečige ebüge-eče inaysi oduu-a ču bolba bide ejelegseger tere qoyar qayan gegen-i elči yeke elči owayuli iwja inamis ing beren isgei soodur uwaligsi jibyiji küwelüwebin qalqa-yin jibjun-damba qutuy-dudu inaylaysayar amuyulang-i medegülünem, sonusba bi yeke ejen čayan qan-i albatu-yi Örüsiyeji tusalaji bayinam geküi-yi selengge-yin čigi orus-ača bisi čigi qota-yin orus-ača sonusba bi, teyimü tulada inaylaysayar ene bičig bariba ünem tulada urid-iyar ilegebe. bi tende kejiy-e kürküleqoyar qayan-i qoyur dumda törü-yin tulada qoyar yeke čayan qan-i gegen-i jarliy-iyar amuyulang qan-du sumun elči ilegekü, tende-eče amuyulang qan yaɣu geküle tere elči-yin üge-yi tere čay-tu yaɣu kelelčeküle jalqayuraqu ügei elči ilegeji tandu yiladqaju bayıqu bayinam, üneler inaylaysan tulada, bi sanayaban urid ayiladqaba, tan-i qayiralaqu-du ene elči-ber bičig baqan beleg bariyulba.bičig-yin qariyu, ene elči-ber. bi amuyulang geji bičig qayiralan,ilegegsen elči-yi mini qayiralan ende keregdü yayuma-yi joriy-iyar qudalduyul.yeke qayan noyad, yeke blam-a quwaray bügüdeger amuyulang boltuyai. bi inaylaysayar kičiyen kereg yambar uçir, amuyulang-i ayiladqayulju bayisu

(ジェプツンダンバにロシアが送った文書：天の定めによって、偉大なるエゼンの両ハーン、偉大なる両ノヤン、イワン・アレクセーヴィチとピョートルが大小の白い大地を治め、それぞれのハーンやエゼンを戴く東西南北の地々を、先祖代々現在も我々が治め続け、この両ハーンの光ある使者、偉大なる使者のオコリニチーでナメストニクの（官職にある）ブリヤンスキー・フョードル・アレクセービチ・ゴローヴィンが、ハルハのジェプツンダンバ・ホトクトに、敬愛して安寧をご報告申し上げます。我は聞いた。大エゼンである白いハーンの属民を慈しみ救っているというのを、セレンゲ方面のロシア人や、別の方面の町のロシア人から、我は聞いた。そのため敬愛してこの文書を上呈した。真のために先んじて送った。我はそこでいつであっても、両ハーンの間政事のために二人の偉大な白いハーンの命により康熙帝に急使を派遣する。そこから康熙帝が何と仰せになろうとも、その使者がその時何を申し上げようとも、勤勉な使者を派遣して猊下にお伝え申し上げます。心より敬愛するため、我は愚見を先んじて申し上げた。猊下を尊んで、この使者をして文書と粗品を献上した。文書の返事はこの使者をして。我は安寧であると文書を与えて派遣した使者を思いやって、ここで必要なものを好きなように売買させられよ。大ハーン、ノヤンたち、大ラマ・ホワラク、皆が安寧でありますよう。我は敬愛して謹んで事案の顛末や挨拶を上申する)<sup>17</sup>

17 *dayičing güren-ü dotoɣatu yamun-u mongɣol bičig-un ger-ün dangsa*. Erkilegčüd Jiyačidai Buyandelger, Borjigidei Oyunbilig, Eu yuwan Pying. Öbür mongɣol-un arad-un keblel-ün qoriy-a. 2006. tal-a 108-111.

F. A. ゴローヴィンがこの手紙を送ったのは、有力貴族と積極的に交流することで、清に関する情報を得ること、セレンゲやその付近の要塞で問題が発生するのを防ぐこと、管轄問題を沈静化させることなどを図っていたからである。ウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバの使節が来る一月前に、ダライ・セツェン・ノヤンの使者であるボシクト・ゾリクトがイルクーツクを訪れて、百人隊長のアレクセヤ・シドロビチャ・シニャピンと会している。ボシクト・ゾリクトが持参した1通の手紙は、訳者によってキリル文字にされた。それがРГАДАに所蔵されている。すなわち、

Енде есе биде. Босого Зориктуйги тероне гет куинь учирту илгексен. Ер тендесе чини укчи идкесен белек аяга лонхо цекме курчи иребо тенде эце чини илгиксен элчи. Сидор Васильев, Иван Офонасьев терегулен арбун дербун некурте иребе. Тере негуткуин учирту зуб саяхан гычи манду аш лак кобо харалди, нутук туни, гаргачи хоюр теге эге чини алба ини абчи ба элдее гичи айлат хаксен биле тере угани(?) харюхани икилен ноинтой зюблечи хйро эгини келеку байна. Загора зач[в]сарту шок болху чибейце гичи. Элчи берх кургул бе игуино койно зару сетереди инакши чинакши элчи бен илгицыди менду бен меделцеди... худалду аралзи бен. Уриду ясугар абулцади баяхула тере унду мани сайн азаму эдечи уриду илгиксин элчир. Бу[я]нту Тусату Хочин Булго тече дербу биле Хочин Болго хоюри алачи кенерта аба акчикусен егомони дербун мурын гурбан торго хорин бис табин чай арбан табун тамаки сангун ман туни ине тегексе тегус кочу скеди угилтей алаксен кумуни цага заяги целден Алексей Сидорович бейде улутай байну<sup>18</sup> [史料№. 19. ボシクト・ゾリクトの書簡]

*“Послан де в-Ыркуцкой острог от мунгальского тайши Цецен-ноена улусной ево человек Босого Зорикту для всякого переговору, а что велено говорить, то писано в листу, а в листу пишет: Послан де был к нашему тайше из-Ыркуцка Сидор Васильев, а с ним в товарищах иркуцкие казаки Ивашко Уксусов, 14 человек, а что де было послано наперед сего с нашим посланцом з Босого Зориктуем и с Сидором с товарищи от великого полномочного посла, от окольничего и воеводы Федора Алексеевича Головина с товарищи, и те де подарки до нашего Цецен-ноена дошли, а что было подарков, и тому подам де письмо. А о чем де говорил Сидор, чтоб де быть в совете и в любви, и отдать бы де нашим тайшам изменников братцких Тертейских и Конкодорского родов, и о том де у нас, тайшей, будет совет: что тех братцких мужиков, хотя де и выпустим на породные земли, ясак бы де имать*

18 РГАДА, ф-1121. [Иркутская приказная изба], оп. 1, д.23. 97. № 135, л. 24.

*Белому царю и нашему тайше, и в том бы де никакие нашим тайшам и промеж острогами никакой споны не чинить, а посланцом де велено говорить без боязни. А которой посланец был у нас в Мунгальской земле Сидор с товарищи, и тот де посланец отпущен с нами до Иркутка в добром здоровье, чтоб де и впредь к нашим // тайшам посланцы ездили, и наши мунгальские посланцы к вам также безо всякие ссоры, и впредь бы де нам промеж себя торги сводить. А преж де сего посланы были от нашего тайши посланцы, 4 человека: Буйту, Тусату, Хочин, Булгуй. И ис тех де наших 4-х посланцов Хочин повешен, Болгой убит, а у тех де наших посланцов взято нашего тайши казны: 4 коня, 3 камки, 20 кумачей, 50 бакчей чаю, 15 бакчей табаку, и то бы де указали великие государи сыскать стольнику Алексею Сидоровичю, а сыскав, велел бы де к нашему тайше отослать, чтоб де впредь о том не ссоритца”*

(モンゴルのツェツェン・ノヤン・タイジの管下のボソゴ・ゾリクトがイルクーツク砦に使者として来訪した。何について話し合ったかについては文書にある。その文書には次のようにある。オコリニチー・フョードル・アレクセービチ・ゴローヴィン大使が、イルクーツクからシドル・バシリエフを筆頭にイルクーツクのカザフのイワシコ・ウクスソフ等14人の従者を含む使者を我がタイジのところに派遣した。ボソゴ・ゾリクトとともに大使からの贈物を我がタイジのところに持ってきた。シドルが我々に、友好的に暮らし、背反したテルメイ、ホンゴードル・オモグのブリヤートたちを我がタイジ等に引き渡すと言った。これについて我がタイジたちが評議してブリヤートたちを故地に戻したとしても、我がタイジや白いハーンに貢租を納めさせることにしたのであった。これを我がタイジたち及び貴方の砦に知らせて如何なる騒ぎも起こさないために、大使に畏れずに伝えるように言い渡した。我がモンゴルに来た使者シドルは従者とともに帰った。向後は貴方の使者と我が使者とが争うことをせず互いに行き来して交易をしていこう。以前は我がタイジ・ボヤント、トサト、ホチン、ボルゴイの4人を派したのであった。そのうちホチンを吊った。ボロゴイを捕らえて殺した。我がタイジの共有庫より馬4頭、絹3本、織物20本、茶50塊、煙草15塊を奪った。後に争わないために、白いハーンはストリニク・アレクセイ・シドロビチに命じて、我がタイジたちにそれらの品を返還されよ)<sup>19</sup>

という手紙を届けている。貿易を行い、互いに交流して友好的に過ごそうという要望は、F.

---

19 *Русско-монгольские отношения. 1685-1691. Сборник документов.* Сост. Г. И. Слесарчук. Ответственный редактор Н. Ф. Демидова. М., Восточная литература РАН. 2000. стр. 102.

A. ゴローヴィンにとっても好都合であったため直ちに使者を送った。

このようにロシア全権大使は、モンゴルの有力貴族たちと交流して、ネルチンスク条約の下準備のために意欲的に活動していた。ネルチンスク条約は、一面ではアルバジンやアムール川流域の問題のように映るが、実際にはそれに匹敵する問題として「モンゴル」人の問題となっていたことは、如上のやりとりから見て取れよう。セレンゲ、ネルチンスク、ウデ、イルクーツクの要塞の管理者たちとの間で発生していた管轄問題や、蒙満関係の活発化などによって、F. A. ゴローヴィンを筆頭とするロシア使節団は、それまでにも増して注意深く観察する必要に迫られることとなった。そこでF. A. ゴローヴィンは、ウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバに宛てた書簡で、

Также б ты, мунгальской Кутухта, нам, великим государем, нашему царскому величеству, радение свое показал, и х китайскому богдыханову высочеству писал и к мирным договором ево приводил

(モンゴルのホトクト、猊下は我らツァーリの案件に介入し中国の皇帝に手紙を書いて、平和と友好の条約に導いてくださるだろうか)<sup>20</sup>

と謹んで請うたのである。その頃セレンゲ、ヘンティー山脈の北東部に暮らしていたセツェン・ハンの貝勒ツェブデンの勢力が強くなっていた。そのため1687年に清国に赴く際、ツェブデンのところに寄って全権大使の活動について話し合うことにした。道中、彼らの馬がモンゴル人に強奪されたため、ツェブデンに探し出すよう求めた。ツェブデンは馬を見つけ出して彼らに渡したうえで、ウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバのところに行くよう助言した。ウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバもまたウルゴアの近くに宿営することを忠言し、トシェート・ハーン・チャホンドルジと面会した。トシェート・ハーン家はこの好機を利用して、失った属民たちを取り返すことを図っていた。F. A. ゴローヴィンは、トシェート・ハーン・チャホンドルジやウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバ等、モンゴルの有力貴族たちの中を何度か偵察させている。そうした有力貴族の一人であるシブタイ・ハタンバートルトシェート・ハーンの従弟でアバタイ・サイン・ハーンの孫一は4,000余人の属民とともにセレンゲ川流域に暮らしていた<sup>21</sup>。

1688年1月に住民S. Ya. コロビンがモンゴル人の内部事情についてF. A. ゴローヴィンに提供した情報には、ウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバのところに清から特使が来

20 РГАДА, Ф-126. [Монгольские дела], 1687 г., д. № 1, л. 1. Подлинник.

21 Бантышъ-Каменсий, Н. *Дипломатическое собрание делъ между Россіскимъ и китайскимъ государствами съ 1619 по 1792-й годъ*. Казань. Типографія Императорскаго Университета. 1882. стр. 55.

たこと、オイラトのガルダン・ボシクトがフレンベルチル会盟に参加しなかったこと、トシュート・ハーンとガルダン・ボシクトが仲違いしたこと、清の使節が夏の間ウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバのところにいる経緯、ザサクト・ハーンとトシュート・ハーンの対立、クカン・ハンからネルチンスクやアルバジンに2万の兵を出陣させようとしていることなどが含まれていた<sup>22</sup>。その情報をもとに、F. A. ゴローヴィンはセレンゲ砦にウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバの使節バルダン・ウイゼンを迎え入れて、情報の精査に当たった。2度にわたる両者の会合で、F. A. ゴローヴィンは、セレンゲ要塞やブラーツクからモンゴルに移住した人々の返還やロシアの町の安全保障等に言及し、モンゴル貴族の内紛について遺憾の意を表明して、平和条約の締結と、それに関する注視点を問うた。使節バルダン・ウイゼンとの会合の後、5項の報告書と題して、過去と現在の関係性を記したものをモンゴル使節に渡している。

イワン・カチャノフ等に使節バルダン・ウイゼンを付随させて派遣し、手紙を翻訳させた<sup>23</sup>。会合後、ウデ砦に滞在したF. A. ゴローヴィンの業務や活動については、モスクワの使節管理局に報告された。1688年3月にはネルチンスクのコサック、V. カザンツェフやI. ソコロフ等から、モンゴル人がネルチンスクに流入する風聞やセレンゲの情勢が<sup>24</sup>、4月にはネルチンスク当局から、満蒙軍がネルチンスク、セレンゲに攻撃すること、モンゴルのダライ・セツェン・ノヤンに関連すること、ウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバが対ガルダン戦の援助を満洲に要請したこと、アハイ・ダイチンに使者を派遣したことなどが、F. A. ゴローヴィンのもとに情報提供されている。注目すべきは、モンゴル人を通じて清の情報を収集していたことである。

1688年6月中旬にウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバの使節バルダン・ウイゼンがウド砦に再び足を運んだ。この来訪の主な目的は次のことであった。すなわち、冬になる前にロシア全権大使が清国理藩院に使節を派遣するのであればモンゴルを通過するまでは援助をすること、中国での使節受け入れの業務を行うこと、ウルゴー付近で商業活動を行うことなどを伝え、満洲皇帝のところまでに2つ門があり、一つはネルチンスク、もう一つはセレンゲ砦であることを述べた上で、友好条約の締結を望んでいることを表明した<sup>25</sup>。ロシア側が明確な返答を出さぬまま数日が過ぎた頃、ガルダン・ボシクトとハルハ

---

22 Русско-монгольские отношения. 1685-1691. Сборник документов. Сост. Г. И. Слесарчук. Ответственный редактор Н. Ф. Демидова. М., Восточная литература РАН. 2000. стр. 121-122.

23 Русско-монгольские отношения. 1685-1691. Сборник документов. Сост. Г. И. Слесарчук. Ответственный редактор Н. Ф. Демидова. М., Восточная литература РАН. 2000. стр. 126-137.

24 Русско-монгольские отношения. 1685-1691. Сборник документов. Сост. Г. И. Слесарчук. Ответственный редактор Н. Ф. Демидова. М., Восточная литература РАН. 2000. стр. 142-143.

25 Русско-монгольские отношения. 1685-1691. Сборник документов. Сост. Г. И. Слесарчук. Ответственный редактор Н. Ф. Демидова. М., Восточная литература РАН. 2000. стр. 150-151.

貴族間の戦争や清国使節のセレンゲ訪問の知らせが、S. Ya. コロビンとトロビスクの役人 I. R. カチャノフによって F. A. ゴローヴィンのもとに届けられた。これはロシア全権大使 F. A. ゴローヴィンをひどく当惑させた。モンゴルの有力貴族たちと条約を締結するのかどうか、直ちに清国に赴くべきか、或いはアルバジンやネルチンスクに赴くべきかといった岐路に立たされた。もしモンゴルのトシェート・ハーンやウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバと条約を結べば新たに台頭してきたガルダン・ボシクトとはどう関わっていくべきなのか、ハルハーオイラト戦争はどちらが勝つのか、清国とは別に条約を結ぶべきかどうかなど、多くの問題が浮上していた。

その直後、ウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバの使節ゲツェル・ロブサン・ダイチンがウデを訪れ、モンゴルの内部情勢について詳細な情報をもたらした<sup>26</sup>。それは、ガルダン・ボシクトがザサク・ハンと同盟を組んでウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバやトシェート・ハーンに対抗していること、ロシアが軍事面で援助すること、清国の使節派遣があればセレンゲに来させることなどについてであった。F. A. ゴローヴィンによるモンゴル人の高評価は、これによって下がったとあってよい。1688年10月の使節管理局の報告書によれば、トシェート・ハーンとガルダンの戦いやモンゴル内部の争いが激しくなり、ハルハの貴族たちは統一され安定した状態を失いつつあった<sup>27</sup>。まさにこの頃、清の使節アルナイがトシェート・ハーン・チャホンドルジのところを經由してウデを訪れ F. A. ゴローヴィンと会しており、その時にネルチンスクでの条約締結が決定された。ネルチンスクが選ばれたのは、清露間の確執が最も根深かったこと、他のロシアの要塞を經由して赴くのに困難が少ないこと、ハルハの地の如き内紛が少ないことなどによる。また、未だ指摘されていないが、報告者のこれまでの研究から「銀の鉱床」をロシア側に残すためでもあったことが分かった。すなわち、エルゲン川の支流で、ネルチンスク要塞の近くを流れるアルタチ、ムングチという名の川の近辺に金や銀の鉱床があるのを、1670年代にパウエル・シュリギンの長官時代にロシア人らが発見した<sup>28</sup>。これは、ロシア人が1640年代よりセツェン・ハンからの情報によって「銀」の鉱床を探して見つけ出したもので、彼らの管理下に置くことはネルチンスク条約で定められている。

F. A. ゴローヴィンは、取り決めた通りにネルチンスクに向かった。その道中、バイカルとセレンゲの間でモンゴルとオイラトの大集団が移動していることを耳にし、急遽計画を変更した。道を引き返してウデ砦に着くと、武力を行使して、流出した人たちを奪取した。これにより、F. A. ゴローヴィンのところに、モンゴルの一部のタイジたちが帰服しにやって来た。モンゴル人にとって火器を用いた戦争はこれが初めてであった。F. A.

26 Шастина, Н.П. Русско-Монгольские посольские отношения XVII века. М., 1958. стр. 144-145.

27 Шастина, Н.П. Русско-Монгольские посольские отношения XVII века. М., 1958. стр. 149.

28 Нерчинск. Редактор В. А. Дутов. Чита. 2013. стр. 14.

ゴローヴィンはこの一部始終を記してモスクワに送った。この出来事について、N. P. シャステイナがセレンゲ砦で非常に威圧的であったことに起因するかのようには説明したのは、あまりに一方的な見方である。というのも、当の逃亡した人々がロシアの属民でないことは疑いようがないからである。この戦の混乱に乗じてザイサン6名、ダルガ2名、シューレンゲ13名、ラマ1名、平民1,200名が公式に属民となってロシア側に残った<sup>29</sup>。これについて公文書には、

воевода Федор Алексеевич Головин с ратными их царского величества людьми их, мунгалов, на них не пропустил, и был у него с ними бой, и на том бою мунгалов побито и в полон взято множество со всеми их пожитки и скотом, а которых побили, и тот скот взяли их царского величества ратные люди. И их де тайши, и Доржи, и Елдень [с] зайсаны, и со всеми своими подданными улусными людьми били челом им, великим государем, в вечное подданство и дали ему, окольниковому и воеводе, для подлинного уверения детей своих родных и братьей и племянников в оманаты, которые аманаты их ныне в Удинском остроге. И как их окольниковей и воевода принял, и они, тайши, сами при нем, окольничем и воеводе, по своей вере шерть учинили и обещались им, великим государем, ясак платить

(モンゴル人たちは大勢の命を奪われ、家畜等とともに捕らわれた。戦死したモンゴル人たちの家畜はツァーリの親兵のものとなった。そして、タイジ・ドルジやエルデニ・ザイサン等が、そのウルスとともにツァーリに謁見して永久の属民となることを宣言し、これを保証するために自分たちの兄弟や従弟たちをウジンスク市のオマンたちのところに残した。そして市長が彼らを引き取った後に、彼らはその前で自分たちの信じることに従って誓いを立てて、ツァーリに貢租を納めている)<sup>30</sup>

とある。

さらに、ロシアは約80名の特使をモンゴルに派遣し、貴族たちを様々に誑かしてロシアの属下にしようと活発に動いた。この影響もあった為か、1688年夏から翌1689年春までに新たに複数の集団がモンゴルを離れてザバイカルに入ってきた。

内部の交戦やロシアの諸政策などにより、1689年1月から幾人かの有力貴族らがロシ

29 Шастина, Н. П. *Русско-Монгольские посольские отношения XVII века*. М., 1958. стр. 152-153.

30 *Русско-монгольские отношения. 1685-1691. Сборник документов*. Сост. Г. И. Слесарчук. Ответственный редактор Н. Ф. Демидова. М., Восточная литература РАН. 2000. стр. 230-231.

アの属下となるために条約を交わそうとロシアに行くようになった。1688年7月にトゥンキンスキーの近くに暮らしていたモンゴル人の集団2個が<sup>31</sup>、1689年1月にアバタイ・サイン・ハーンの孫ダシ・ホнтаイジ [dasi qung tayiji] の子エレヘ・ホнтаイジ [erke qung tayiji]、ビント・アハイ [bintu aqai]<sup>32</sup>らが最も早く、それぞれ帰順すべくロシアに向かっていてる。РГАДА所管史料から、ビント・アハイ、エレヘ・アハイ等がロシアに宛てた書簡が新たに発見された。ここで、ビント・アハイの手紙を掲げる。

ejen yeke čayan qayan-du mörgünem. ejen yeke čayan qayan-u bičig tamay-a jayun siru qoyar sayin čengme arban bulayayir minü yar-tu bariyulba. bi yeke mörgüji bayarlaba bi. ula ügei alba ügei geji qayiralaysan-du yeke bayarlaba mörgübe. ejen yeke čayan qayan-du bintu aqai bi mörgünem. urid iregsen jayun yučin ulus albatu-yin tulada mörgügsen bile. ejen yeke čayan qayan-i jarliy ene geji. yurban jilese uruysiki ulus albatu-yi ürebe. yurban jilese qoyisiki ulus albatu-yi qayiralaba geji. mikeyida eleksei bayiji fbayibul ibang ayiçi, simon tolmaçi ene yurban tolmaçi bintu aqai mini elçi duryul-i kiy-a bayisi-du ejen yeke čayan qayan-i jarliy ene geji bičigülbe. ejen yeke čayan qayan ay jarliy ulus-i tan-i tamay-a bičig-tü ög gegsen jarliy ügei geji ene bayising giyin noyad ese ögbe. ejen yeke čayan qayan-du bintu aqai bi mörgübe. ene ulus albatui-gi min qayiralamu geji mörgübe. ejen yeke čayan qayan-du mörgünem bintu aqai bi. ejen yeke čayan qayan-u öndür yeke urtu gar-tu tüsigesen qoyin ulus albatui-yi mini qayiralamu geji mörgünem bi. ulus albatum min ügeyirebe sürüg adayü min dayin abuba. jil i-yin sara-yin mönggü tariy-a qayiralamu geji mörgünem geji. ejen yeke čayan qayan-u öndür yeke urtu gar-tu erke qung tayiji erdeni qung tayiji tüsigesen bile. tayiji gem ügei bayital-a urbaji očiba. erke qung tayiji (gi) albatu ig bariji očiba. bintu aqai bi ejen yeke čayan qayan i sanaji mörgüji sayunam bi. ene mörgüji ayiladqaysan i qariyu gi mongyol bičig oros bičig qayiralamu geji mörgünem. ejen yeke čayan qayan du mörgünem. bintu aqai bi elçi ilegey-e gegsen bile. ene bayising giyin noyad ejen yeke čayan qayan-u jarliy ügei geji elçi ülü ilegenem. elçi ilegeltei učir bolqu du elçi ilegey-e geji mörgünem. bintu aqai öber ün yar-iyar bekelebe

(エゼン偉大なる白いハーンに跪拝する。エゼン偉大なる白いハーンの文書印章、珊瑚100個、ラシャ2点、革10点を我は賜った。我は大いに跪拝して喜んだ、我は。馭馬も貢租も免じてくださったことに大いに喜び跪拝した。エゼン偉大なる

31 *Исторический выбор: Россия и Бурятия в XVII – первой трети XVIII века. Документы и материалы.* Иркутск, 2014. стр. 327.

32 *Asarajči neretü-yin teike.* Эх бичгийн цогц судалгаа хийсэн доктор (Ph.D) Д.Заяабаатар. Улаанбаатар. Болор судар; 2011. tal-a 79.

白いハーンにビント・アハイ我は跪拝する。先に来た130名の属民のために跪拝したのである。エゼン偉大なる白いハーンの勅令はこれであると。3年より前の属民は見逃した。ここ3年の属民は与えてくださったと。ミキータ・アレクセービチ、パウエル・イワノビチ、セメン・トルマチ、この3人の訳者が、ビント・アハイ我の使者ドルゴルがヒャー・バグシにエゼン偉大なる白いハーンの勅令はこれであると書かせた。エゼン偉大なる白いハーンの勅令の中に、汝の印文とともにウルスを渡せとはないとして、このバイシン（オストログ）の貴族たちは渡さなかった。エゼン偉大なる白いハーンにビント・アハイ我は跪拝した。我のこの属民を与えられよと申し上げて跪拝した。エゼン偉大なる白いハーンに跪拝する、ビント・アハイ我は。エゼン偉大なる白いハーンの高く大きく長い手を頼った我の属民20人を与えられよと申し上げて跪拝する、我は。我が属民は貧窮した。我が馬群は敵が奪った。歳の月の銀や作物を与えられよと申し上げて跪拝すると。エゼン偉大なる白いハーンの高く大きく長い手を、エレヘ・ホンタイジ、エルデニ・ホンタイジが頼ったのであった。タイジは過失もないのに背いて投降した。エレヘ・ホンタイジは属民を連れて投降した。ビント・アハイ我はエゼン偉大なる白いハーンを偲んで拝んで暮らす、我は。この、跪拝して上奏したことへの返事はモンゴル文とロシア文にして与えられよと申し上げて跪拝する。エゼン偉大なる白いハーンに跪拝する。ビント・アハイ我は使者を送ろうと申し上げたのであった。このバイシン（オストログ）の貴族たちは、エゼン偉大なる白いハーンの勅令がないとして使者を送らない。使者を派遣する事態となったときには使者を送ろうと申し上げて跪拝する。ビント・アハイが自らの手で認めた<sup>33</sup>

とあるように、ロシアの術中に陥って帰順のための文書を上呈している。F. A. ゴローヴィンの主導で9項の条約の原文が作成された<sup>34</sup> [史料№20. ビント・アハイがロシアに宛てた文書]。これは、ロシアがモンゴルや清と初めて締結した条約 [договор] の一つであり、ネルチンスクの7か月前に結んでいる。F. A. ゴローヴィンは、ロシアに帰順した者や納租者からの報告をシベリア当局に送った。かなり多くの貴族が帰順を表明するようになった。例えば、ツェレン・タイジ、ツェレンジャヴ・ビント・アハイ・タイジ、ドラル・タブナン、ゼヴ・エルデネ、エルデネ・ツォクト、メルゲン・アハイといった貴族たちの名前が挙げられよう<sup>35</sup>。

33 РГАДА. Ф- 214. [Сибирские приказ]. Оп.3. №544. лл.343-344.

34 *Русско-монгольские отношения. 1685-1691*. Сборник документов. Сост. Г. И. Слесарчук. Ответственный редактор Н. Ф. Демидова. М., Восточная литература РАН. 2000. стр.186-190.

35 Бантышъ-Каменсий, Н. *Дипломатическое собраніе о дель между Россіскимъ и китайскимъ*

このようにF. A. ゴローヴィンは短期間のうちに、モンゴルの有力貴族たちに積極的に近づいて活動し、時には高圧的に、仲間うちで対立させたりしながら、1689年8月に条約の締結のために「ネルチンスク」を訪れた。この頃、トシェート・ハーン・チャホンドルジやウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバは、ガルダン・ボシクトの勢力に押されて黒龍江や興安嶺、ハルハ河の東側で暮らすようになっていた。

セレンゲやバイカル湖域に移動してきた人々の管轄問題は比較的緩和され、有力貴族たちは帰順を表明し、トシェート・ハーンやウンドル・ゲゲーン・ジェプツンダンバ等は故地を離れて移動し、ガルダン・ボシクトの兵軍は後退してホブドの地に暫定的に落ち着いた。F. A. ゴローヴィンにとっては、言ってみれば、懸念事案の少なくなった好機であり、これを利用して条約の締結を急いだ。1689年8月12日、シルゴとネルチャ川の間にあるネルチンスクの小さな砦の近くで、四方八方からやってきた総勢500名が一堂に会した。

両国の参加者には、中国の欽定大臣・幫辦大臣・領侍衛内大臣ソングト、内大臣・固山額真・一等公ナガチュ、トン・グ・ガン、固山額真ランタン、固山額真バンダルシャ、黒龍江將軍サブチュ、護軍統領マラ、理藩院尚書ウンデ、ロシアの欽定境界画定大臣大使ウ・コル・ニ・チェイ・イ・ナ・メス・イ・ケ・ブ・リヤン・ジ・コイ・フォードル・アレクセイ（ゴローヴィン）、エ・フィ・チ・ホ・ロ（セモン・コルニツキー）、バン・セ（ブラソフ）らがおり<sup>36</sup>、フランス出身のジェルピリオンがラテン語通訳をつとめた。交渉は公式にはラテン語で行われ、領地の決定をはじめとして難題は多く、各自が利益を守ろうとするために言い争いが起きた。

ロシア人研究者のP. T. ヤコヴレヴァは、清の使節が直ちに宣戦したのに対して、ロシア使節は温和な対応で無駄な流血を望まなかったと述べているが<sup>37</sup>、たとえそうであったとしても、軍事力や兵力等の面で、当時のロシアが清軍と交戦する力を有していなかったという事実も考慮する必要があるだろう。

1689年8月14日から27日の2週間にわたって議論をした末、露清間の初めての条約である「ネルチンスク」条約の締結が完了した。この条約によって9項が規定された。すなわち、黒龍江の北から注ぐチョルナというウルム川の近くにあるゲルビチ（ゴルビツァ）川を境にして、黒龍江の南を清の、外興安嶺の北をロシアの管轄下にするよう国境を定め、黒龍江に流れ込むエルゲン河を以て国境線とし、メイレルケ [мэргэлэг]<sup>38</sup>川付近のロシア

*государствами съ 1619 по 1792-й годъ*. Казань. Типографія Императорскаго Университета. 1882. стр. 59.

36 АВПРИ. Ф-163. Трактаты. оп.1. л. №22. 1689. [Нерчинский договор между Россией и Китаем от 27 августа 1689 г.]. л. 2-3об. – заверенная копия, русский язык., л. 6-6 об. – подлинник, латинский яз., л. 7-11 – подлинник, маньчжурский язык.

37 Яковлева, П.Т. Первый русско-китайский договор 1689 года. М., Наука. 1958. стр. 168.

38 報告者は、エルゲン川流域、ハイラル、ダライ湖などN. G. スパファリーが行った場所、および

人を退去させることを定めた。また満洲語原文には、

emu hacin ne yagsa-i bade oros gurun-i araha hoton-be yooni necihiyeme efulefi yagsa-i  
bade tehe oros-i niyalma eiten jaka-be gemu cagan han-i bade amasi gocibume<sup>39</sup>  
(ヤクサの地にロシアが残した町／家や建物を全て解体して、ヤクサの地に住む  
ロシア人と雑多な物すべてを白いハーンのところに戻す)<sup>40</sup>

とし、両国の狩猟者がこのように定めた境界を絶対に越えないようにし、一人でも二人でも勝手に越境して密猟することがあれば捕らえて各自の地へ、管轄の長官や役人に届けるよう定めた。仮に数人が誤って行ってしまうと、両国のこの友好的な生活を維持し、交戦することは望まないとして、これまでのあらゆる案件は論議しないこととしたほか、現在中国にいるロシア人およびロシアにいる中国人については、互いに受け渡すことはしないこととした<sup>41</sup>。これは、以前に大きな問題となった、ダウール貴族のガントムルー族の事案と関連する。

両国間における交易関係を通常化し、専用の印文を取得すること、合意し締結した日以降に逃亡する者があれば必ず返還すること、両国の大臣たちが会して境界間の戦争を止めること、歩み寄って友好的に良好に末永く、確固として定めた地を越えて違えることのないようにといった、明確な項目も設けられた<sup>42</sup>。

条約はロシア語、ラテン語、満洲語で二部ずつ作成され、両国の境界には漢語、満洲語、ロシア語で刻した碑を建てるよう定めた。V. S. ミヤニコフは、ゲルビチ川の近くにあった碑文から漢語の原文を入手したと記している<sup>43</sup>。

このように露清間で結ばれた初めての条約となる「ネルチンスク」条約は、締結の初期

---

黒龍江、ネルチャ川、チチハルなどアルシンスキーが赴いた地域に、2015年9月9-16日と翌2016年10月27日から11月3日の両度にわたって、関連する地および先住民の歴史や文化に関する資料を収集した。

39 АВПРИ. Ф-163. Трактаты. оп.1. д. №22. 1689. [Нерчинский договор между Россией и Китаем от 27 августа 1689 г]. л. 7-11. - манж хэлний эх.

40 АВПРИ. Ф-163. Трактаты. оп.1. д. №22. 1689. [Нерчинский договор между Россией и Китаем от 27 августа 1689 г]. л. 7-11. - манж хэлний эх.

41 АВПРИ. Ф-163. Трактаты. оп.1. д. №22. 1689. [Нерчинский договор между Россией и Китаем от 27 августа 1689 г]. л. 2-3об. – заверенная копия, русский язык., л. 6-6 об. – подлинник, латинский яз., л. 7-11 – подлинник, маньчжурский язык.

42 *Русско-китайские отношения 1689-1916. Официальные документы*. М., Восточная литература, 1958. стр. 10.

43 Мясников, В.С. *Договорными статьями утвердили. Дипломатическая история русско-китайской границы XVII-XX вв.* М., 1996. Стр. 452.

の情勢から「モンゴル」問題に直面することとなった。F. A. ゴローヴィンの積極的な活動や高圧的な姿勢、深刻な内部情勢などによってモンゴル人の影響力が小さくなっていたとはいえ、露清間の仲介や、管轄民をめぐる対立、先住民の管轄問題、貴族間の同盟、帰順行為といったモンゴル人に関連する諸問題が、この条約をめぐる活動と密接な関係にあったことは、ここまでに論じてきた通りである。露清間で締結されたこの条約は、境界、管轄、交易の問題を調整するための第一歩となっただけでなく、その後結ばれたいくつもの条約や協定の基礎ともなった。そして、その度にモンゴル問題が取り上げられ、モンゴル人の介入が慣例化することとなった。ネルチンスク条約は、モンゴルのその後の様々な問題を明確にし、法的観点からも物事を解決するおおもとなつた。このことに留意しつつ、更に深く研究していく所存である。

キーワード ネルチンスク条約、露蒙関係、露清関係、17世紀、ハルハ・モンゴル、ロシア、清朝、ウンドル・ゲゲーン・ジェブツンダンバ

